

保育おおさか

平成15年6月1日 第334号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-242615年度
総会

保育制度に厳しい眼を

新役員体制決まる

初夏の暑さを感じられるようになった5月21日（水）、平成15年度保育部会総会が、大阪社会福祉指導センターで開催された。

第1部 式典

開会に先立ち、主催者を代表して高岡國士部会長が、「国の保育制度の状況は、テレビ、新聞等でご存知のとおり非常に厳しく、保育所運営費の一般財源化など、報道どおりのようなことに

なれば、われわれが今行っている保育園の根幹そのものをゆるがし、運用上さまざまな面で厳しい状況になります。しかしわれわれとしては、子どもたちの保育環境がより良いものとなるために、精一杯がんばっていく必要があります。また、5月27日に日保協の総決起集会を行います。保育部会としてもその議事の重要性からご参加をお願いしたところ、400人を超える参加申込みがあり、それだけ変革、保育行政に対して、

厳しい眼をもっていたいただいているということに厚くお礼申し上げます」と挨拶された。

5年勤続職員304人の感謝状を、阿武山たつ子保育園の西村明子さんが代



感謝状を受け取る
西村明子さん



認定証を受け取る
高橋裕美さん

次に、藤田室長、府議会議員の北川イツセイさん、永野孝男さん、伊山喜二さん、浦野靖人さんから来賓祝辞をいただいた。

議事

表して高岡部会長から授与され、続いて、大阪府「育児相談員」の認定証を、久米田保育園の高橋裕美さんが代表して、大阪府健康福祉部児童家庭室の藤田室長

その後、議事に移り、堺ブロックから文化保育園の浅田三雄さん、鈴木宮保育園の一本敬子さんを議長に選出し、議案審議に入った。

新役員など

役職名	氏名（所属）
会長	高岡 國士（千里丘愛育園）
副会長	門谷 明（陽気保育園）
	永野 治男（横塚台保育園）
	水崎 勝（寝屋川なかよし保育園）
	森田 信司（花園保育園）
	武内 茂子（旭ヶ丘学園）
幹事	熊井 茂治（千里山やまて学園）
	濱田 晋（智鳥保育園）
	西岡 成典（恵果保育園）
	宮武 勲（大野台保育園）
	浅田 三雄（文化保育園）
	田中 正清（泉佐野すえひろ保育園）
	川畑 昭夫（柱本保育園）
	菊池 繁信（もみの木保育園）
	浅井 孝男（あけぼの保育園）
	嶋田 典之（取石南保育園）
会計	今西 博嗣（くすのき保育園）
監査	西浦 正義（新家保育園）

平成14年度保育部会事業報告、収支決算報告を森田信司副部会長から、監査報告を嶋田典之監事から、平成15年度保育部会事業計画、収支予算書、会則改正、役員等の承認についてを門谷明副部会長からそれぞれ報告し、満場一致で承認され、議事を終えた。

（記念講演は2面に掲載）



んです。勤務の日は、子どもだけでなく保育士や調理員からも「Tさん」と引っぱりだこです。

開園24年目の当園は修理箇所が多く、また、園の周りは自然に溢れており、雑草がすぐに生い茂る環境です。元気一杯な子どもたちによって損傷する物もあります。そのためTさんへの連絡ノートにはお願いごとが一杯です。

子どもたちの輝く瞳の先には、Tさんが腰につけた「七ツ道具」。その道具を器用に使い、いろんな物を手際よく直していきます。その姿に「ぼくは大きくなったらTさんになる。」と憧れている子どももいます。保育に使う道具作り、広い園庭斜面の土留め作り、そして、園舎内の整備、花壇や園庭整備にも力を注ぎ、保育園を美しく保ってくれている「我が園のヒーロー」に、私たちはいつも感謝しています。（U・K）

第2部
記念講演

記念講演は、大阪府健康福祉部児童家庭室の藤田哲士室長から「大阪府の保育行政について」で主に国と大阪府の動向を、続いて保育専門誌「遊育」の吉田正幸編集長から、「保育制度改革の行方を考える」というテーマでそれぞれ講演をいただいた。

深刻化する保育環境

柔軟な対応めざす



氏 藤田 哲士
大阪府健康福祉部
児童家庭室室長

やすい対策や、そのための目標を提出してもらったことを計画している。

また、平成17年度から市町村

現時点での大阪府内の保育所利用の状況について、保育所施設数・保育所定員・利用児童数・定員充足率・保育所利用児童割合などの説明があった。

府は平成7年度から「子ども総合ビジョン」を、平成9年度には「保育促進計画」をそれぞれ策定し、この2本立てで進めてきたが、虐待など子どもを取り巻く環境が深刻化してきたため、新しいプランをつくる必要があり、平成13年度以降子ども環境づくり推進委員会で議論を行い、2本立てを1本化し、「大阪府子ども総合プラン」を策定した。

そのために、家庭で子育てしやすい環境をつくれるよう、事業者が子育てをし

トがあり、一つ目は、子どもの権利の保障、二つ目は子育て支援センター事業などで地域の底上げを図ること、三つ目は保育サービスの実施のために延長保育、一時保育、夜間保育などに



保育所が力ギ



氏 吉田 正幸
専門編集長
「遊育」編集長

を養育してきた専業主婦も減ってきたことで、家庭機能が弱体化している。

また、地域コミュニティの崩壊が起き、利用者は園生活の情報要求する一方で、個人のプライバシーは守りたいという現象がみられる。このような背景から保育士にも守秘義務が一層課せられることになった。

産業構造も変化した。働き方の多様化、消費構造も変化した。第1次、第2次産業が減少し、第3次産業が増加する中で、人々はお金で外にサービスを求めるようになった。保育に対しても同様である。生活自給率が急速に低下してきている。これに伴い今までの生活文化が崩壊し、暮らし方、生き方が変化し、「社会力」の衰退が起きている。このような近年の社会

まずプロローグとして、スタンダードの変容について、これまでの常識は常識へ、非常識は常識へと激変してきていると話された。今までの「標準世帯」(夫婦と子ども2人からなる世帯のうち、有業者が世帯主1人だけの世帯)といわれていた家族が減少し、乳児

の変容から、これからの保育のあり方が見えてくる。これに付随して保育所をめぐる制度的な課題は変化し、この5年間の保育制度改革の基本方向は、「多様化と選択の時代へ」となってきた。保育機能として、

これまでのオプションドットものが一般化されるようになってきた。例えば0歳児の乳児保育はこれまで希望保育だったが、働き方の変化により一般的に受け入れるようになり、延長保育はなし崩しの11時間保育になった。一時保育も同様である。特別保育事業として地域の未就園児子育て支援機能も求められている。

保育士の国家資格と業務定義の確立や子育て支援の重視(育児の社会化と保育の「社会化」、そして次世代育成支援)も課題に含まれること。

また、吉田氏の考えの中には在宅ベースの福祉がある。企業が次世代育成に力を入れ始めると、育児休業取得者が増加して在宅の育児が増えるが、保育に欠けない3歳児未満の家庭に目

豊かな保育は豊かに生きることから

を向け、どう支援していくか。子どもだけに目を向けても保育はよくならない。地域に目を向け、「次世代」を支援するために保育所がどのような機能を果たせ、支援できるかが鍵であると話された。

制度的な課題として、地方分権と規制改革の波が押し寄せ幼保の垣根が低くなる中、単純な一元化ではなく多文化の中の一つのバリエーションとして捉えていく、また第三者評価に向けた働きを誰のための何の評価なのかを十分に考えた上で、保育向上へ材料とすべきなどを話された。

今後の保育所が抱える課題として、子育て支援に生活文化支援の発想や説明責任、質の良い保育の提供、魅力ある保育所に向けての専門性とプロであるという意識を持つことを挙げられた。

講演の最後に、「豊かな生活文化には豊かな表現がある。豊かな保育にも豊かな表現がある。豊かに生きましよう」という言葉が心に残った。(むぎの穂保育園 K・M)

子どもの育ち 守れ

—8000人集結—

子どもを守る総決起大会



子どもを守る総決起大会が、5月27日日本武道館で開催された。保育所運営費の一般財源化・幼保一元化・調理室の撤廃に反対するということで、全国から8000人余りの保育関係者が、子どもの育ちを守るために集結し切実な願いを強くアピールした。

第1部は、保育者のためのフォーロアアップセミナーとして、タレントで自然暮らしの会代表を務め、親子で大自然を楽しみ、感動を共有できる「清水國明の自然楽校」を設立した清水國明氏の講演が行われた。

近年、過度に子どもを守り、本来子どもがやるべきことを親が代わりにやってしまう傾向がある。子どもは、その時を楽しみたいのに、育てる側が子どもの成長を待てずにせかしている。その時期に合った成長をさせるべきだと話された。

反対

- ① 一般財源化
- ② 幼保一元化
- ③ 調理室撤廃

最後に、自然の中にいると、生きていくための体験ができるので、保育の中にも自然を多く取り込み、子どもを自然の中に引き入れ、熱い思いで目覚めさせてほしい、と結ばれた。

■わたしが医者であり、しかも良心的なヤブ医者であることは、最初にもお話ししました。

なぜ、ヤブ医者になってしまったのかと自分で分析した結果、わたし自身が患者さんや病院が好きではないのが、その原因だと分かりました。

■特に、わたしが精神科を専攻したことも不幸でした。なぜなら、精神科の患者さんの特徴を一言で言えば、

落語医者の保育うだうだ話

「笑いの効用

③

なんとと言っても、ほとんどの患者さんは明るくないです。楽しそうでもありません。また、病院というのは、そんな人が集団で生活している所ですから、決して明るく楽しい場所ではないのです。

そして、ボクは暗いのは嫌いなのです。明るく楽しいのが好きなんです。

と、言って、医者のわたしが耐えられないのです。そうなんです。うつ病、

ノイローゼの人は笑えないのです。皮肉な言い方をすれば、笑いを忘れて不幸になりました。わたしは思えるのです。

■特に、自分自身を、別の自分が見て笑うことができれば、症状との距離がとれて、深みに嵌まることもないのですが、それができない

不安に埋没してしまうという悪環境に陥るのです。■もっと笑って、ハッピーになる訓練を、幼い時からしていれば、うつ病にもノイローゼにもならなかった

■言いかえれば、笑うことには、凝り固まった心を揉みほぐし解放する力、そして、こころのオリを浄化させる力がありますし、対人関係で言えば、他人を引き付け、他人と親しく交わる力もあるのです。

この笑いのすばらしい力が、わたしに言わせれば、ハッピーな人生を送る基本なのです。

■育児や教育の一番大切な目標は、その子どもたちが幸福な人生を送れるようにしてあげることであり、それ以外の目的はないと、わたしは考えています。

この意見に反論はないと思います。現実には、育児や教育現場は知育ばかりに走っていませんか、知識がついただけで、幸福な人生を送るための本当の知恵や力が育ちますか。

■「今後このような大会が開かれることのないように、それぞれの持ち場で全力を尽くしていきたい」と、心強いお言葉をいただいた。

最後に、全国各地で更に活動を展開することを宣言し、子どもたちの健やかな成長と幸せを願い、大会アピールを採択し終了した。

(大野台保育園 T・M)

